

## 【表紙】

【提出書類】	訂正発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年4月28日
【会社名】	東武鉄道株式会社
【英訳名】	TOBU RAILWAY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 根津 嘉澄
【本店の所在の場所】	東京都墨田区押上一丁目1番2号 上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。
【電話番号】	該当事項なし
【事務連絡者氏名】	該当事項なし
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区押上二丁目18番12号（本社事務所）
【電話番号】	(03)5962-2175
【事務連絡者氏名】	財務部課長 野口 洋輔
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行登録書の提出日】	2021年7月1日
【発行登録書の効力発生日】	2021年7月9日
【発行登録書の有効期限】	2023年7月8日
【発行登録番号】	3 - 関東2
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 100,000百万円
【発行可能額】	100,000百万円 (100,000百万円) (注) 発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額 (下段( )書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき算出した。
【効力停止期間】	この訂正発行登録書の提出による発行登録の効力停止期間は、2022年4月28日(提出日)である。
【提出理由】	2021年7月1日に提出した発行登録書の記載事項中、「第一部証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正を必要とするため及び「募集又は売出しに関する特別記載事項」を追加するため、本訂正発行登録書を提出する。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 【訂正内容】

### 第一部【証券情報】

#### 第1【募集要項】

<東武鉄道株式会社第132回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）に関する情報>

##### 1【新規発行社債】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本発行登録の発行予定額のうち、金10,000百万円を社債総額とする東武鉄道株式会社第132回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）（以下「本社債」という。）を、下記の概要にて募集する予定です。

各社債の金額 : 金1億円

発行価格 : 各社債の金額100円につき金100円

償還期限（予定）：未定（注）

払込期日（予定）：2022年6月以降（注）

（注） それぞれの具体的な日付は利率の決定日に決定する予定であります。

##### 2【社債の引受け及び社債管理の委託】

（訂正前）

未定

（訂正後）

社債の引受け

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しております。

引受人の氏名又は名称	住所
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目9番2号
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

（注） 上記の通り、元引受契約を締結する金融商品取引業者を予定しておりますが、各引受人の引受金額、引受けの条件については、利率の決定日に決定する予定であります。

##### 3【新規発行による手取金の使途】

（1）【新規発行による手取金の額】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本社債の払込金額の総額10,000百万円（発行諸費用の概算額は未定）

## (2)【手取金の使途】

### (訂正前)

運転資金、社債償還資金、借入金返済資金、短期社債（ＣＰ）償還資金及び設備投資資金に充当する予定であります。

### (訂正後)

運転資金、社債償還資金、借入金返済資金、短期社債（ＣＰ）償還資金及び設備投資資金に充当する予定であります。

本社債の手取金は、全額を当社が策定したグリーンボンド・フレームワークの適格クライテリアを満たすプロジェクトである新型の鉄道車両及び太陽光発電システムに係る設備投資資金並びにリファイナンスに充当する予定であります。

「第一部 証券情報 第2 売出要項」の次に以下の内容を追加します。

## 【募集又は売出しに関する特別記載事項】

＜東武鉄道株式会社第132回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（グリーンボンド）に関する情報＞

### グリーンボンドとしての適格性について

当社は、本社債についてグリーンボンドの発行のために国際資本市場協会（以下「ICMA」という。）の「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021年版」（注1）及び環境省の「グリーンボンドガイドライン2020年版」（注2）に則したグリーンボンド・フレームワークを策定し、株式会社格付投資情報センター（以下「R&I」という。）より原則等に適格である旨のセカンド・パーティー・オピニオンを取得しております。

（注1） 「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021年版」とは、ICMAが事務局機能を担う民間団体であるグリーンボンド・ソーシャルボンド原則執行委員会（Green Bond Principles and Social Bond Principles Executive Committee）により策定されているグリーンボンドの発行に係るガイドラインです。

（注2） 「グリーンボンドガイドライン2020年版」とは、グリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がグリーンボンドに関する具体的対応を検討する際に参考とし得る、具体的対応の例や我が国の特性に即した解釈を示すことで、グリーンボンドを国内でさらに普及させることを目的に、環境省が2017年3月に策定・公表し、2020年3月に改訂したガイドラインです。

### グリーンボンド・フレームワークについて

#### 1. 調達資金の使途

グリーンボンドの調達資金は新型の鉄道車両及び太陽光発電システムへの投資に充当される。

東武スカイツリーライン・日光線・鬼怒川線の浅草駅から東武日光駅・鬼怒川温泉駅間で導入される「N100系」及び「500系」はともに既存の「100系」に替わる特急車両として導入される。N100系は「特急スペーシア」の後継モデルとして24両・4編成を2023年度までに新規投資予定である。500系は18両・6編成を2021年度に増備しており、グリーンボンドの資金使途はそのリファイナンスとなる。

運輸部門の中でも環境負荷の小さい鉄道輸送は社会全体で取り組む地球温暖化抑制において重要な役割を担っている。

鉄道車両の新規投資及びそのリファイナンスは人々に低排出な輸送手段を提供するものであり「クリーン輸送」に該当する。新型車両は十分な省エネ効果が見込めるスペックを有しており、また騒音・振動対策や資源循環への配慮もなされていることから、全体として明確な環境改善効果が見込める。

東武動物公園駅西口商業施設の太陽光発電システムはリファイナンスであり、CO2削減効果のある「再生可能エネルギー」プロジェクトである。

環境・社会面の負荷が小さい屋根置き型であり、事前に十分な光害対策も実施されていることから明確な環境改善効果が期待できる。

#### 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

適格プロジェクトはマテリアリティの一つである「環境優位性の更なる向上などによる環境負荷の低減」との関連性が明確であり、グリーンボンドの発行は東武グループにおけるサステナビリティ経営の推進を目的とした資金調達として位置付けられる。

プロジェクトの評価・選定においては、候補となる全プロジェクトにつき環境・社会の観点から横断的な検証を実施しリスク低減を図っている。

適格プロジェクトは財務担当役員による確認を経て取締役社長が最終決定している。

### 3．調達資金の管理

財務部が各プロジェクトの支出を管理し、充当額と未充当額を追跡管理する。グリーンボンドの調達資金は他の資金と同一口座に入金されるが、各プロジェクトへの資金充当状況については内部で別途区分管理する。各プロジェクトへの資金充当が完了するまでの間は、未充当資金を現金又は現金同等物にて管理する。

### 4．レポートニング

東武グループはグリーンボンド原則2021がレポートニングにおける重要な推奨項目とするグリーンボンド・フレームワークをウェブサイトで開示する。

グリーンボンド発行後に実施する資金充当状況及び環境改善効果のレポートニングはプロジェクト単位で実施する。

環境改善効果に係る指標についてはICMAのガイダンスで推奨されている定量指標を挙げ、グリーンボンドの調達資金が全額充当されるまでの間、年次で開示する。